

“出雲”の進水、日本はなにを企むのか？（抄訳）

阿部信行

（訳者コメント）

海自の護衛艦”出雲”の進水に関して、中国人民解放軍機関紙「解放軍報」の記事を紹介します。

解放軍報は、命名された”出雲”の艦名と進水式の日取りが広島の実爆投下記念日に当たるとして、日本の政治的意図を指摘しています。

この記事は、中国国内及び対日宣伝を目的としており、記事全体の印象は、極めて情緒的で安倍政権を軍国主義政権と決めつけています。いわば日本国内の一部勢力に迎合した記事になっています。

中国海軍は、空母「遼寧」が今後戦力化できるかどうか不明な時期に、確実に戦力化できる日本の準空母が出現したことによって焦燥を感じているのではないのでしょうか。

興味のある方は、下記資料（“出雲”の進水、日本はなにを企むのか？（抄訳）、作者：葉辛宗、中国軍網—解放軍報 2013080703:49）をお読みください。

“出雲”が正式に就役し、以前に護衛艦の名目で建造した2艘の“日向”級ヘリ搭載駆逐艦が加わると、日本は3艘の準空母を保有することになる。もしF-35を搭載すれば、これらは真の空母になるだろう。かつて日露戦争及び侵華戦争に参加した艦名を選択し、更に広島への原爆投下68周年記念日に出雲の進水式を行ったことは、政治的な意味を含んでいる。

日本の首相安倍晋三は、国民の悲しみを利用し軍備を整え軍国主義的野心を満たそうとしている

日本海上自衛隊最大の艦艇である“出雲”は8月6日、神奈川県横浜市で進水式を行った。この艦は22DDH型の1番艦であり、以前の艦と比べると、トン数が最大で、基準排水量1.35万トンのヘリ搭載駆逐艦“日向”級よりも50M長い。また進水式当日は広島への原爆投下68周年記念日であった。平和の祈念と戦争武器の交差は国際社会の注目を集めた。

“最大の駆逐艦”なのか或いは本物の空母か？

報道によると、出雲の艦番号は183で、全長248 m、幅38 m、排水量1.95万トン、満載排水量2.7万トンで、海上自衛隊では最大の艦艇である。資料によると、同艦の建造費は1139億円（約71億人民元に相当）、2015年3月就役予定

である。

“出雲”は、MV-22 オスプレイを搭載することができ、最多で 14 機のヘリを搭載し、同時に 5 機のヘリを離着陸させることが可能であり、多くの媒体は“ヘリ空母”と称している。同艦は、3 セットの CIWS 武器システム、2 セットの RAM 型ミサイル発射装置を装備している。艦首から艦尾まで全通甲板で、外観は航空母艦に似ている。改修すれば F-35B 型戦闘機が搭載可能である。米国の軍事専門サイト“グローバル・セキュリティ”によると、22DDH 型護衛艦は、排水量、設備、機能が軽空母の特性を完全に満たしていると指摘した。

しかし第二次大戦後、日本は敗戦国として空母保有を制約されてきた。したがって日本の防衛省は、固定翼機用の設備がないとの理由で、“出雲”が攻撃型空母であるとの見方を否定してきた。しかし防衛省は、“出雲”は長期間の海上防衛任務が出来る海上基地であると、或いはヘリコプター搭載駆逐艦であると称してきた。もしこの論法に従えば、“出雲”は世界最大の駆逐艦である。これまで米国最大の駆逐艦はバーク級であり、排水量は 1 万トンに届かない。

軍事専門家は、護衛艦“出雲”が就役し、以前に護衛艦の名目で建造した 2 艘の“日向”級ヘリ搭載駆逐艦が加わると、日本は 3 艘の準空母を保有することになる。もし F-35 を搭載すれば、これらは真の空母になるだろうと述べた。

艦名と進水式の日付は政治的な意味を含む

“出雲”のトン数と設計目的の比較照合、及び“出雲”の命名と進水時期は、各方面の注目を集めた。

歴史上、“出雲”は日本海軍の一装甲巡洋艦の名称であり、日露戦争及び侵華戦争に参加した。侵華戦争中、“出雲”は日本海軍中国方面艦隊の旗艦であった。同艦は 1945 年呉海軍工廠で米軍に撃沈された。

軍事科学院日本問題専門家の袁楊は次のように述べた。出雲は島根県の一地名であり、多くの民間伝説の発祥地でもある。また以前の艦艇の命名法は各国海軍の習慣に従ってきた。しかしかつて日露戦争及び侵華戦争に参加した艦名を選択し、更に広島への原爆投下 68 周年記念日に“出雲”の進水式を行ったことは、政治的な意味を含んでいる、と。

また袁楊は、日本が外界に向けていかに平和を宣伝しようとも、この行為の周辺国家に与える影響を知るべきである、と述べた。

中国人民大学国際関係学院副院長の金燦榮は、広島への原爆投下 68 周年記念日に“出雲”の進水式を行ったことは、意味深長である。日本の首相安倍晋三は、国民の悲しみを利用し軍備を整え軍国主義的野心を満たそうとしている、と述べた。

さらに、目下、米国は財力不足で軍事費を縮減しようとしている。アジア地区の軍事力配備は日本に依存しなければならない。このことが安倍に軍事力発展のチャンスを与えた、と述べた。

安倍政府の本心は測り知れない

ある時期以降、安倍晋三は周辺環境の悪化を理由に平和憲法の改正への動きを速めだした。別の方面では、日本が先月公布した“新防衛計画大綱”中期報告において、“釣魚島”防衛を強化するため自衛隊の“海軍陸戦隊機能”を強化し、専門の“上陸奪島部隊”を建設するよう直接指示した。

“出雲”は、海上でのヘリの修理能力と他艦艇への給油能力があるので、あるメディアは、準空母 22DDH の建造は安倍政権が軍国主義を追求しようとする企図の証拠であると分析した。また専門家は、“安倍政権は自衛隊を軍隊に昇格させ、再び”正常国家“の戦争発動権を掌握しようと準備している”と警告した。

軍事専門家の宋曉軍は、日本が準空母の建造を推進する動機の一つは、集団的自衛権にある。いわば一旦日本が集団的自衛権を認めると、日本の大きな戦力がヘリ空母を通じて迅速に立体的に投入可能になり、米国の水陸両用作戦能力の補完機能をはたす、と述べた。

“出雲”の進水に対して、多くの有識者は、憂慮を表明している。日本共同通信社は評論で、防衛省は周辺国家との海上の緊張によって離島防衛の強化を急いでいる。このとき大型艦船の登場は周辺国家を刺激するかもしれない、と述べた。

ニュースリンク：

ヘリ駆逐艦“日向”と“伊勢”は、“日向”級の 1 番艦と 2 番艦である。“日向”は、長さ 197M、幅 33M、基準排水量 1.35 万トンであり、日本の現有の各種駆逐艦の大きさをはるかに超越するだけでなく、一部の国家の軽空母を超える。

格納庫は最多で 11 機のヘリを収容できる。

“大隅”級輸送上陸艦は、全通甲板の長さが 120M、幅 23M、基準排水量約 9000 トン、最多搭載機数は 6 機である。1998 年に大隅が正式に就役した。軍事専門家は、第二次大戦以降、日本が初めて空母を建造したと述べた。

支援艦“近江”と“摩周”は、同型艦であり、基準排水量が 1.35 万トン、“大隅”級と比べると、トン数は更に大きく、空母の特色が更に明白であり、航空能力がさらに強化され、格納庫は広く、8 機の艦載機を搭載でき、同時に 2 機のヘリを離着陸させることが可能である。

編集責任者：呂欣彫

以上